

～平成27年9月関東・東北豪雨規模の洪水に対する再度災害防止～

○平成27年9月関東・東北豪雨で甚大な被害が発生した利根川水系鬼怒川では、鬼怒川緊急対策プロジェクトに加え以下の取り組みを実施していくことで、国管理区間においては、戦後最大の平成27年9月関東・東北豪雨と同規模の洪水を安全に流下させ、流域における浸水被害の軽減を図る。

### ■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・侵食対策、堤防整備、河道掘削、調節池整備、河道整備、田川合流部対策、樋管改築
- ・砂防堰堤等の整備(いのちとくらしを守る土砂災害対策)
- ・利水ダム等13ダムにおける事前放流等の実施、体制構築(関係者:国、県、企業など)
- ・森林の整備・保全
- ・水田貯留(田んぼダム)・雨水貯留施設整備・透水性舗装・浸透枮等

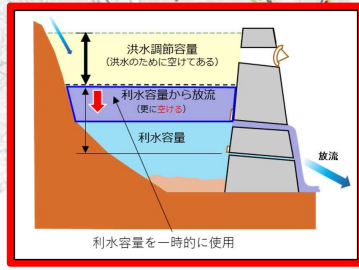
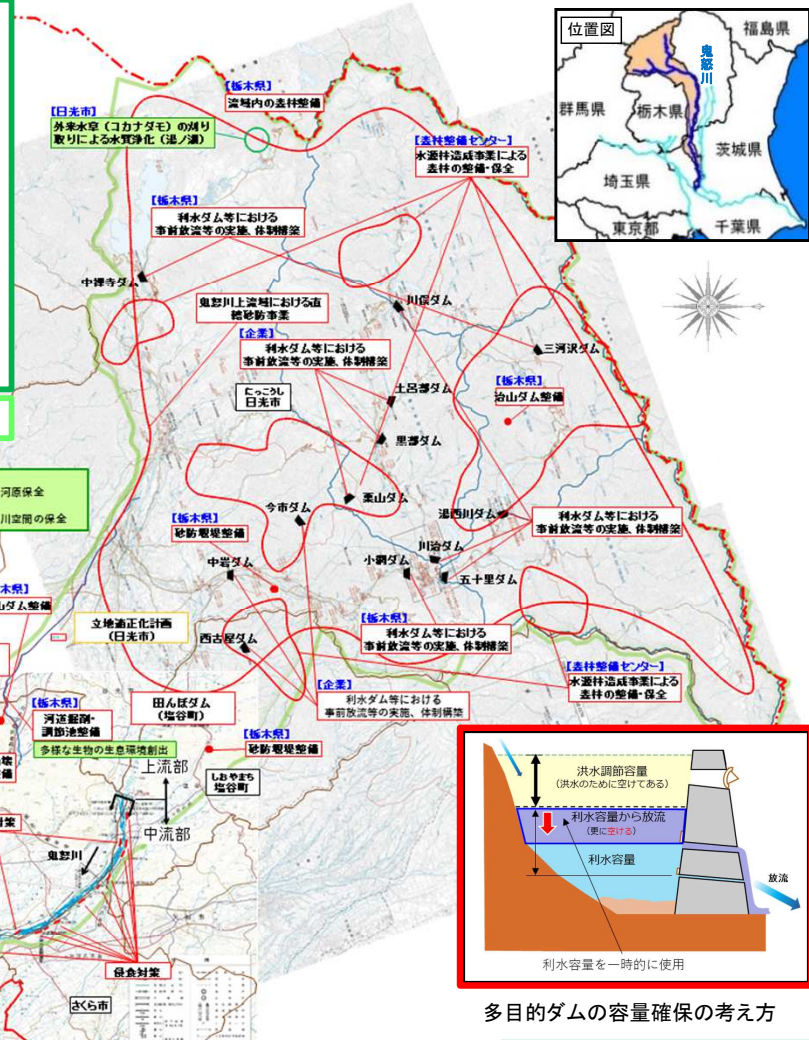
### ■ 被害軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・危機管理型水位計、簡易カメラの設置
- ・マイ・タイムライン普及促進
- ・広域避難計画の策定及び訓練
- ・ハザードマップの作成、周知
- ・要配慮者利用施設の避難確保計画作成の促進
- ・地域防災リーダーの育成
- ・水防災意識強化月間における集中的な普及・啓発活動の実施
- ・防災教育や防災知識の普及
- ・水防体制の強化
- ・緊急排水計画策定及び訓練
- ・水害リスク空白域の解消等

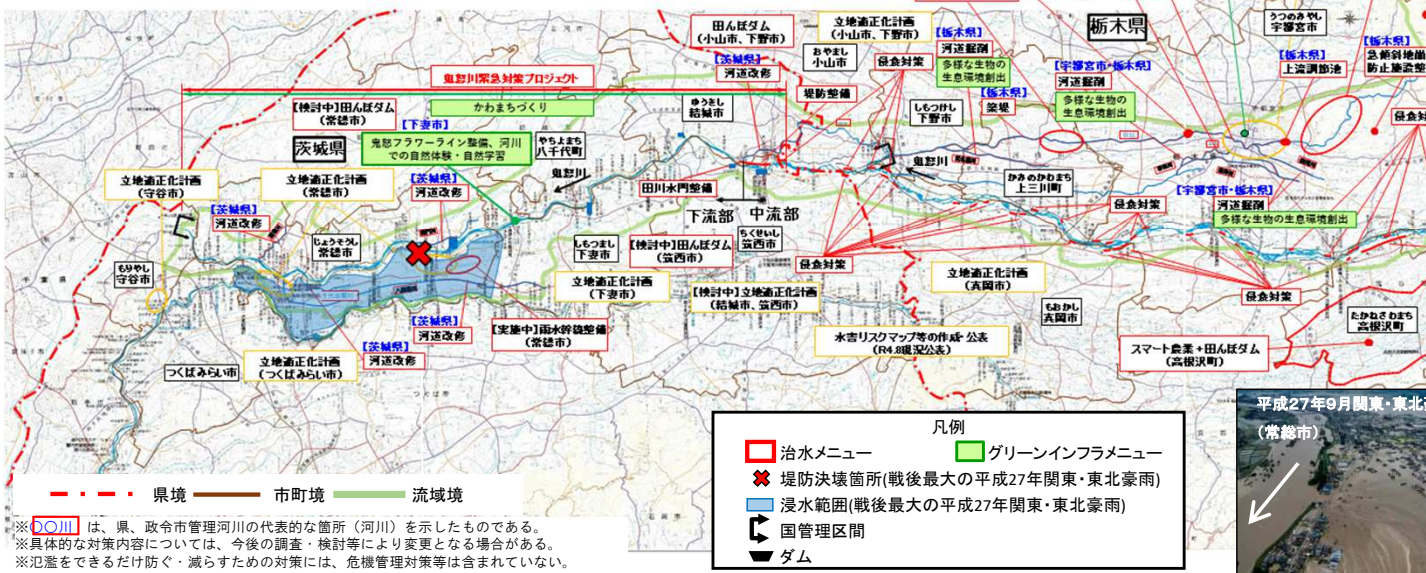
### ■ 被害対象を減少させるための対策

- ・立地適正化計画に基づき水害リスクの低い地域への居住誘導区域設定
- ・開発の規制や居住の誘導に有効な多段階な浸水リスク情報の充実等

### ● グリーンインフラの取り組み 詳細次ページ



多目的ダムの容量確保の考え方



凡例

□ 治水メニュー	□ グリーンインフラメニュー
✕ 堤防決壊箇所(戦後最大の平成27年関東・東北豪雨)	
■ 浸水範囲(戦後最大の平成27年関東・東北豪雨)	
◀ 国管理区間	
■ ダム	



※〇〇川は、県、政令市管理河川の代表的な箇所(河川)を示したものである。  
 ※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。  
 ※氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策には、危機管理対策等は含まれていない。



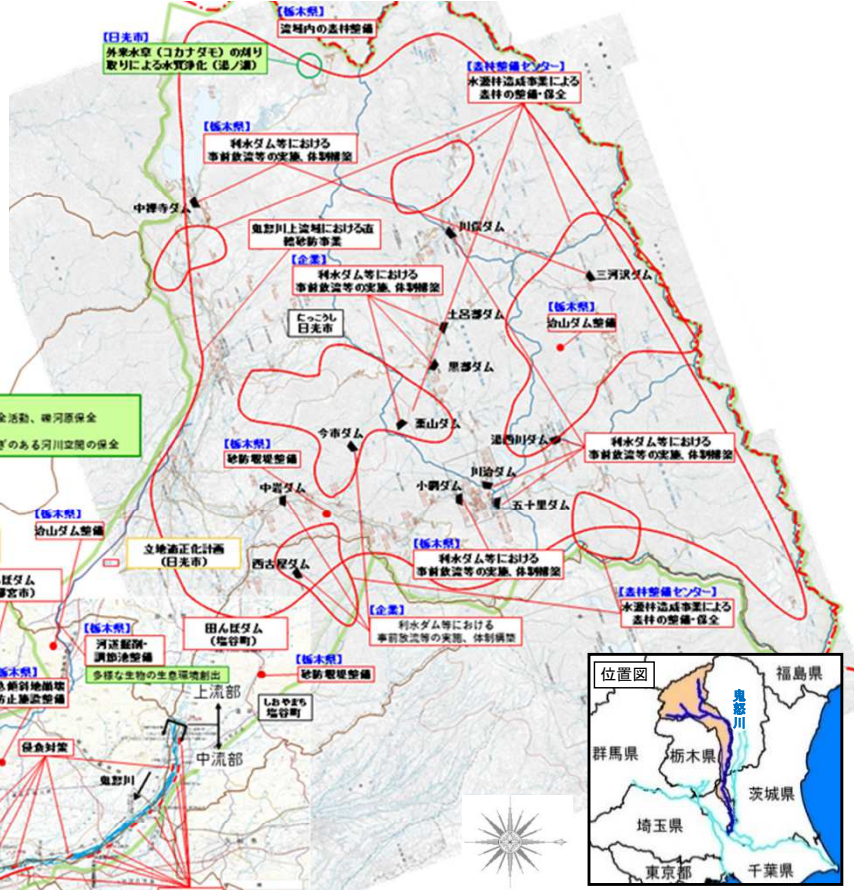
～平成27年9月関東・東北豪雨規模の洪水に対する再度災害防止～

### ●グリーンインフラの取り組み『水辺の環境や風景を楽しみながら巡る、魅力あるサイクリングネットワーク構築による地域振興』

➢ 鬼怒川では、中流部の礫河原、下流部の砂河原や湿地環境等、特徴的な自然環境が見られる。治水、利水及び流域の自然環境、社会環境との調和を図りながら、河川空間における自然環境の保全と適切な河川利用の促進を図る。

➢ 「茨城県総合計画」では、サイクルツーリズムを含む観光振興により、観光消費額を増加させることを目標に掲げている。これに寄与できるよう、鬼怒川下流部において、概ね令和6年度までに、周辺自治体と連携したかわまちづくりの軸として、水辺の環境や風景を楽しみながら巡ることを目的としたサイクリングネットワーク構築のため、堤防整備にあわせて設置する河川管理用道路等も活用し、サイクリングロード42.3km、リバースポット19箇所の整備を進める。また中流部では地域と連携したレキ河原環境の保全活動を継続するなど、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取組を推進する。

- 健全なる水循環系の確保
  - ・外来水草（コカナダモ）の刈り取りによる水質浄化
- 治水対策における多自然川づくり
  - ・多様な生物の生息環境創出
- 魅力ある水辺空間・賑わい創出
  - ・かわまちづくり（鬼怒川・小貝川）
  - ・釜川を活用したイベント実施
- 自然環境が有する多様な機能活用の取組み
  - ・地域と連携したカワラノギク等の保全活動、礫河原保全
  - ・民間協働による水質調査



※**BOU**は、県、政令市管理河川の代表的な箇所（河川）を示したものである。  
 ※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。  
 ※氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策には、危機管理対策等は含まれていない。



●鬼怒川では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、国、県、市町が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。

【短期】関東・東北豪雨規模の洪水に対する再度災害防止のため、鬼怒川緊急対策プロジェクト及び田川合流部対策を重点的に実施。  
安全なまちづくり(立地適正化計画に基づく防災指針の検討等)の策定

【中期・中長期】断面不足となっている樋管改築及び堤防の洗堀を防止するための侵食対策を実施。  
内水被害軽減対策(雨水貯留施設の新設等)等の流域における対策、タイムラインの活用等を実施。

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぎ、減らすための対策	鬼怒川緊急対策プロジェクト(堤防整備・河道掘削等)	下館河川事務所・茨城県	鬼怒川完了	樋管改築完了	
	樋管改築(樋管上下流の築堤含む)	下館河川事務所			
	中流域の侵食対策	下館河川事務所			侵食対策完了
	田川合流部対策	下館河川事務所		田川合流部対策完了	
	支川田川河道改修	茨城県			支川田川改修完了
	支川の河道掘削、調節池整備等	栃木県・茨城県			
	砂防堰堤等の整備(いのちとくらしを守る土砂災害対策)	日光砂防事務所・栃木県		砂防堰堤等の整備	
	森林整備・治山対策	栃木県、森林整備センター			
被害対象を減少させるための対策	「安全なまちづくり」に向けた取組立地適正化計画に基づき水害リスクの低い地域への居住誘導区域設定	(作成済)宇都宮市・日光市・小山市・真岡市・下野市・下妻市・常総市・守谷市・つくばみらい市 (作成中)結城市・筑西市	立地適正計画策定(結城市、筑西市)		
	開発の規制や居住の誘導に有効な多段階な浸水リスク情報の充実(「多段階の浸水想定図」及び「水害リスクマップ」の作成・公表)	下館河川事務所	「現況」を公表		
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	マイ・タイムライン普及促進・ハザードマップ作成、周知・地域防災リーダーの育成・防災教育や防災知識の普及等	下館河川事務所・栃木県・茨城県・宇都宮市・日光市・小山市・真岡市・さくら市・下野市・上三川町・塩谷町・高根沢町・結城市・下妻市・常総市・守谷市・筑西市・つくばみらい市・八千代町			
グリーンインフラの取組	外来水草(コカナダモ)の刈り取りによる水質浄化	奥日光清流清湖保全協議会(日光市・栃木県等)、地域住民			
	多様な生物の生息環境創出	栃木県		河道掘削	
	かわまちづくり	下館河川事務所、かわまちづくり協議会(筑西市・結城市・八千代町・下妻市・常総市・つくばみらい市・守谷市)		サイクリングロード、リバーサポート整備	
	釜川を活用したイベント実施	宇都宮まちづくり推進機構(宇都宮商工会・宇都宮市等)			
	鬼怒フラワースタイル整備	下妻市			
	礫河原保全	下館河川事務所		砂州除去、外来種除去	
	地域と連携したカワラノギク等の保全活動	地域住民			
民間協働による水質調査	下館河川事務所、沿川住民				

**■河川対策**  
 全体事業費 約686億円  
 対策内容 堤防整備、河道掘削、樋管改築、田川合流部対策等

**■砂防対策**  
 全体事業費 約668億円  
 対策内容 いのちとくらしを守る土砂災害対策等

**■下水道対策**  
 全体事業費 約119億円  
 対策内容 雨水貯留施設整備等



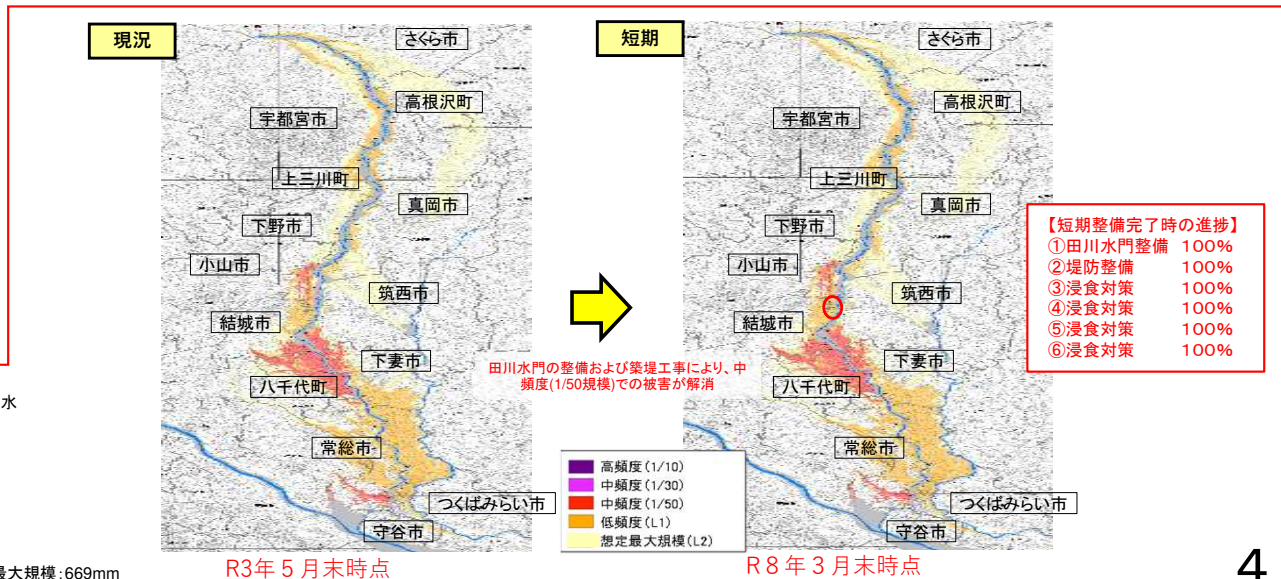
※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

○鬼怒川緊急対策プロジェクトのR3年完成に伴い、平成27年9月関東・東北豪雨規模の洪水による再度災害の防止が可能。  
○田川合流点の水門整備が令和6年度までに完成することで、田川への逆流による氾濫が防止されるほか、樋管改築及び侵食対策の実施により整備計画目標流量を安全に流下させることが可能。

短期整備効果：河川整備率 約71%→約100%(整備計画規模)



対策内容	区間	工程		
		短期	中期	長期
①田川水門整備	中流部	R3	100%	
②堤防整備	中流部		100%	
③侵食対策	中流部	100%		
④侵食対策	中流部	100%		
⑤侵食対策	中流部		100%	
⑥侵食対策	中流部		100%	
⑦侵食対策	中流部			100%



【短期整備完了時の進捗】  
 ①田川水門整備 100%  
 ②堤防整備 100%  
 ③浸食対策 100%  
 ④浸食対策 100%  
 ⑤浸食対策 100%  
 ⑥浸食対策 100%

注：洪水浸水想定区域図作成マニュアル(第4版)に基づき、鬼怒川(直轄管理区間)が氾濫した場合に、浸水深が0cmより大きい浸水範囲をシミュレーションにより予測したものである。  
 注：想定最大規模については、平成28年8月に公表した洪水浸水想定区域図である。  
 注：外水氾濫のみを想定したものであり、内水氾濫を考慮した場合には浸水範囲の拡大や浸水深の増大が生じる場合がある。  
 注：国直轄事業の実施によるものであるが、今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

算出の前提となる降雨  
 鬼怒川流域の3日総雨量  
 高頻度(1/10):317mm 中高頻度(1/30):403mm 中頻度(1/50):442mm 低頻度(1/100):495mm 想定最大規模:669mm

R3年5月末時点

R8年3月末時点



戦後最大洪水等に対応した河川の整備（見込）



整備率：100%

（概ね5か年後）

農地・農業用施設の活用



3市町村

（令和4年度末時点）

流出抑制対策の実施



102施設

（令和4年度実施分）

山地の保水機能向上および土砂・流木災害対策



治山対策等の実施箇所 100箇所

（令和4年度実施分）

砂防関連施設の整備数 1施設

（令和4年度完成分）

※施行中 ○2施設

立地適正化計画における防災指針の作成



3市町村

（令和4年12月末時点）

避難のためのハザード情報の整備



洪水浸水想定区域 575河川

（令和4年9月末時点）

※一部、令和4年3月末時点

内水浸水想定区域 1団体

（令和4年9月末時点）

高齢者等避難の実効性の確保



洪水541施設  
避難確保計画 土砂78施設

（令和4年9月末時点）

※一部、令和4年3月末時点

個別避難計画 【集中中】

（令和5年1月1日時点）

## 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策



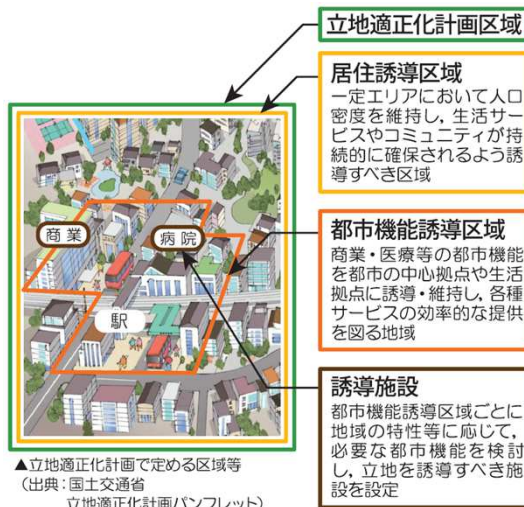
小山市における田んぼダム

○農耕地の対策メニューとして水田貯留の「田んぼダム」がある。鬼怒川では複数の市町において導入及び検討が進んでいる。

### 【令和4年度の実績】

- ・茨城県事業として常総市内で26ha、小山市で約143ha（市全体では約2千ha程度）、下野市で約114ha、上三川町で約33haを追加予定
- ・宇都宮市で事業継続しており、実績を集計中（令和3年度末時点625ha整備）
- ・今後実施に向けた検討を行っている地方自治体が3箇所（常総市、筑西市、高根沢町）

## 被害対象を減少させるための対策



○居住誘導区域等を定め、住民の居住エリアを誘導する施策である。鬼怒川では複数の市町において導入及び検討が進んでいる（現在までに9市町で導入済み）。

### 【令和4年度の実績】

- ・結城市において計画をR5.3に公表予定
- ・今後実施に向けた検討を行っている地方自治体が1箇所（筑西市）

○鬼怒川・小貝川の水害リスクマップ及び多段階の浸水想定図の現況を平成4年8月31日に公開

## 被害の軽減、早期の復旧・復興のための対策



令和4年8月4日

宇都宮市防災講座

○令和4年度の取り組みとして、宇都宮市平石地区において「防災講座」を開催し、約20名の参加者に対して、鬼怒川の歴史・特性や水害・水防等について説明した。その他に八千代町が「マイ・タイムライン作成講座」の開催、下館河川事務所がマイ・タイムラインリーダースキルアップ講座をWEBで開催した。



令和4年9月10日

八千代町

令和5年1月21日

スキルアップ講座（WE 5